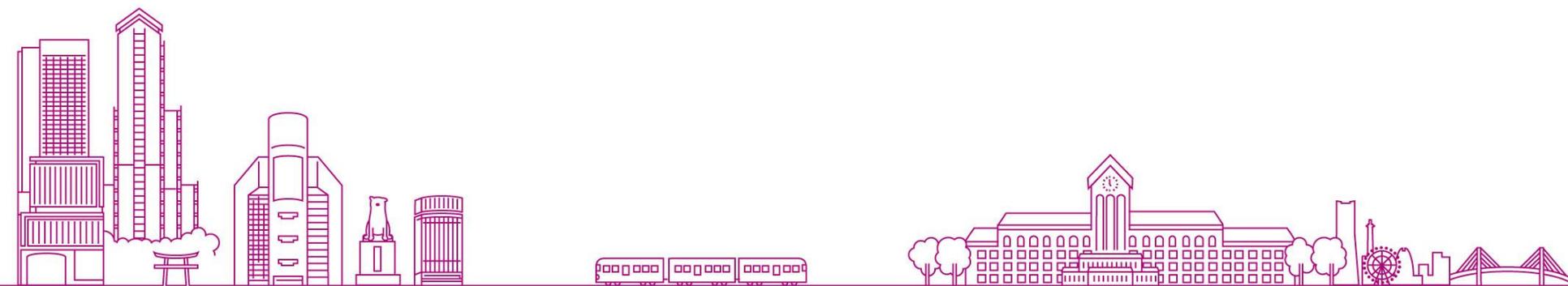


III. 時間割の作成



(1) 卒業に必要な科目を知る

共通教育プログラム (36単位以上)

| 科目の種類 | 科目 (または科目区分) | 単位数 |
|-------|------------------------|---------------|
| 必修 | 神道と文化 | 2単位 |
| | 英語Ⅰ～Ⅳ | 8単位 |
| 選択必修 | 専門教養科目群 | 6単位以上 (パッケージ) |
| | 数的推論 コンピュータと情報 | 2単位以上 |
| 選択 | 共通教育プログラム科目から自由に 選択 | 18単位以上 |

(1) 卒業に必要な科目を知る

専門教育科目（64単位以上）

☞ 選択するコース

（法律学の基本と応用／政治と法の基礎）によって
必要単位が異なります！

履修要綱の

P55（法学部）、

P56～60（法律専攻）について

熟読してください。

(2) 進級条件

全学年共通

各年次に1学期以上在学すること

2年生→3年生 への進級条件 (法学部)

- ①2年次終了までに3学期以上在学
- ②卒業に必要な単位で34単位以上を修得すること。

(3) 前期の時間割を考える

法律専攻の前期指定登録科目（合計10単位）

→K-SMAPY II「学生時間割表」で各自曜日・時限を確認すること

※同じ学科の同じ科目でも曜日・時限が異なることがあります

- ・「神道と文化」 (共通 必修)
- ・「英語Ⅰ」 (共通 必修)
- ・「英語Ⅲ」 (共通 必修)
- ・「キャリア・プランニング」 (専門 義務履修)
- ・「民法法入門」 (専門 義務履修)

(3) 前期の時間割を考える

1年生が前期に登録できる単位の上限は23単位

※後期に登録できる単位数は、42単位から前期登録単位数を引いた数
例) 前期に20単位登録した場合は、後期に22単位分登録可能

※2年生からは前期の単位制限がないため、前期に登録しすぎないように
注意! (前期に42単位登録、後期の登録が0単位という事例も…)

法律専攻の前期指定登録科目 = 10単位

👉 自分で前期に登録できる単位数は
 $23 - 10 =$ 最大 13単位まで!

(3) 前期の時間割を考える

～自分で登録可能な**13**単位分の選び方～

【履修要綱でチェック】

- ・必修>選択必修>選択
- ・開講学年

【WEB時間割(大学HP)でチェック】

- ・開講曜日、時限
- ・履修制限(学科指定、学年指定など)

【シラバス(K-SMAPY II)でチェック】

- ・授業内容、評価方法
- ・履修制限(学科指定、学年指定など)など

(3) 前期の時間割を考える

～自分で登録可能な13単位分の選び方～

これまでの説明を踏まえると、下記のような科目がおすすめ
※選択するコースを考慮して科目を選択しましょう。

- ・専門教養科目 (共通 選択必修)
→パッケージを選択の上、開講学年1年・法学部生が履修可能な科目を選ぶ
- ・「数的推論」or「コンピュータと情報」 (共通 選択必修)
- ・「公法入門」 (専門 カテゴリ2 2年次以降履修不可)
- ・「刑事法入門」 (専門 カテゴリ2 2年次以降履修不可)
- ・カテゴリ9の1年次・前期開講科目 (専門 カテゴリ9 3年次以降履修不可)

(4) 教職・資格課程科目

教職課程を希望する学生（履修要綱P.106～）

☞教職ガイダンスを受講の上、必要な科目を時間割に組み込んでください。

資格課程を希望する学生（履修要綱P.141～）

博物館学課程 / 図書館司書課程

学校図書館司書教諭課程 / 神職課程

明階総合課程（神道文化学部のみ選択可）

保育士課程（子ども支援学科のみ選択可）